

大相撲名古屋場所に
名身連の利用者さん、会員さんがご招待されました。

**名古屋場所観戦
95人、熱戦に感激
障害者連合会員ら**

名古屋市身体障害者福祉連合会の会員ら九十五人が二十一日、県体育館（中区）で開かれている大相撲名古屋場所を観戦した。写真。

目や耳に障害のある会員も十両以上の熱戦に感激し、盛んに拍手を送った。会長の浅野義勇さんによると、目の見えない人は耳で雰囲気を感じ、耳の間こえない人は観客の拍手などで盛り上がりを感じた。浅野さんは「会員にとっては社会と交わる貴重な機会であり、自立を促す一助になっている。テレビではできない体験で皆、毎年楽しみにしている」と話した。

ホテル経営などを手掛けるリゾートトラスト（中区）やプロゴルファーの森口祐子さん、相撲ファンでつくる名古屋溜（かき）会から中日新聞社会事業団が寄託を受け、招待した。



160722 中日新聞朝刊市民版より

身障者95人招待

名古屋市身体障害者福祉連合会の会員95人が観戦。女子プロゴルファーで岐阜県瑞穂市在住の森口祐子（61）、大相撲ファンの親睦会、名古屋溜（たまり）会、ホテル経営などを手掛けるリゾートトラスト（名古屋市中区）からの寄託を受けた中日新聞社会事業団が招待した。

浅野義勇会長（71）は「名古屋市昭和区」は「テレビでは味わえない、現場の雰囲気を感じ、楽しみになっている。今場所は観戦になって面白い」と話していた。



160722 中日スポーツ新聞より

